

「20年第2回遊歩会」

柴又帝釈天・寅さん

矢切の渡し・野菊の墓を訪ねて

本 部 有 馬 絃 一

遊歩会に雨なしと思えるほどに、今回も暑くもなく寒くもない晴天の中、初参加の甘利さん、久しぶりの五関さんも参加され、総勢12名、予定のコースを廻ってきました。

普段、こったがへしている帝釈天の表参道も、平日のこともあり人出もボチボチ、おかげで高木屋の草だんごをゆっくりと買うことが出来ました。

寅さん記念館では、各作品のマドンナの前で「浅丘ルリ子！吉永小百合だ！」と、暫しシルバー入場券片手に、当時の映画の思い出に浸りました。

江戸川べりで、それぞれ持参の昼食をとった後は、江戸初期より唯一残っている、あの「つれて逃げてよ〜♪」の“矢切の渡し”の猪牙舟、いつもは親子船頭なのですが今日は乗客が多くないので、せがれが櫓を漕ぎ親父はもやい場口で、手作りの土産物を売っていました。川面を流れる風も心地よく、江戸時代の庶民にタイムスリップした気分でした。

「野菊の墓文学碑」がある下矢切の西蓮寺境内は、小高い丘になっており、近くには下総の国府があったために、記録に残る大きな戦いが七度あったといわれ、隣の野菊園より眺めると、往時の様子が目に浮かぶようでした。

帰路は北総鉄道の矢切駅で、夕方の混雑する前にそれぞれの方向に分かれ解散しました。ご参加の皆様お疲れ様でした、ありがとうございました。常連の方も久しぶりの方も、共に歩き語らいながら一日を過ごし、“仲間ってほんとーに良いものだな〜”と感じさせていただきました。

